

## □市民の放送ボランティア(ナパサクラブ)・(SCNクラブ)によるラジオ及びテレビを通じた防災情報の発信の取り組み

放送ボランティア ナパサクラブ・SCNクラブ 佐藤明子

### ナパサクラブとは

1994年7月1日ラジオ局 FM 湘南ナパサはコミュニティー放送局として誕生した。

ナパサとは、放送周波数の 78.3MHz に由来するものである。ナパサは、大規模な地震が近く発生が予測されている状況下において、大規模地震時の情報伝達、また平常時の防災啓蒙に力点をおいている。平常時の取り組みとしては、防災一ロメモを各番組中に日常的に放送すること、防災ジングル(※ナパサ防災ジングル歌詞参照)を頻繁に使

う、市の消防本部による緊急放送システムの訓練放送などを行っている。

同じ年、市民による放送ボランティア組織「ナパサクラブ」(以下ナパサクラブ)(現在会員数 225 名)も誕生した。ナパサクラブの平常時の活動は、それぞれの会員が特技や趣味を生かした番組を週 20 本程度制作している。例としては、音楽番組、グルメ番組、アニメ番組、文学番組、中学生が作る番組、障害者が作る番組、ひらつか在住の外国人による番組等がある。

#### ～ナパサ防災ジングル歌詞～

♪現金、♪乾パン、♪飲料水、♪ズツクに、♪軍手に♪ヘルメット、♪いつもの薬に、♪懐中電灯、♪ラジオに♪ナパサ♪♪

※ジングル…番組の合間(コーナーの区切りなど)に入る音楽にのせたキャッチフレーズで、局名や番組名を告知するために流されるもの

### SCN クラブとは

1990年4月湘南ケーブルネットワーク(ShonanCableNetwork)は地域の有線テレビ放送局として誕生していた。ナパサクラブの誕生を契機に同じくボランティア組織「SCNクラブ」(以下SCNクラブ)(現在会員数 23 名)が誕生した。SCN クラブの平常時の活動は、毎月 1 本の 30 分番組を制作することである。ひらつか周辺の旅番組や人物紹介、グルメ番組、社会活動紹介番組などを放送している。

このように両クラブのクラブ員はラジオやテレビでそれぞれの個性を生かした番組を持っている。防災情報の発信に際しては、両クラブは連絡をとりながら活動を行うことになっている。

## テレビ&ラジオ番組「地震そのときあなたは」発足の経緯

平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災を契機にラジオ局FN湘南ナパサのナパサクラブとテレビ局湘南ケーブルネットワークのSCNクラブは、大地震の危険性が警告されている地域にある放送局としてどのような形態でどのような情報が発信できるか検討した。

ナパサクラブは発足以来、FM湘南ナパサの放送に携わるスタッフとして「いざという時に役立つナパサ」を合言葉に、いつ地震が起こっても冷静沈着に放送ができるように意識を高めている。具体的には、地震対策マニュアルを作成し地震に対する基礎知識を身に付け、地震が起こった場合には迅速に放送ができるように心がけている。なお、ナパサクラブ入会時には、このマニュアルをもとにした講習会受講することを義務づけ、入会後も定期的に地震防災に関する勉強会をおこなっている。

一方、SCNクラブは被災後の混乱の中、ケーブルテレビでは放送をすぐに立ち上げることができない可能性が高いと考えていた。その点ラジオは比較的早い段階で放送を開始することができる。同じ地域に存在する放送局として、大きな地震が発生した場合どのような放送が可能かを互いに検討

した結果誕生したのがラジオとテレビの市民ボランティアによる共同制作番組「地震!!その時あなたは」である。

## 「地震!!その時あなたは」の放送

毎月、平塚を中心とした地域の防災関係者をゲストに迎えている(ゲストリスト参照)。日常的な、ゲストの出演により防災の一番の基礎である、顔の見える関係を築くことを目標としている。いざという時にはこれらの関係者に出演をお願いする場面もあるであろう。その時のために日ごろの連携を重視している。

毎月1回の生放送と、ラジオは4回の再放送、テレビでは8回の再放送を行っている。

また、ラジオでもテレビでの違和感なく視聴できるようなトーク番組の構成を心がけている。同じ番組をラジオでもテレビでも放送するという形態をとっているからである。この番組は、大きな地震が起こった場合ラジオの放送がはじまると同時にSCNのカメラがラジオのスタジオに入り、ラジオ放送の様子をテレビに映し出す訓練を前提としているからである。

## 放送スタッフ

放送スタッフのほとんどが市民ボランティアである(局側の協力も得ている)。いざという時に両クラブの全クラブ員が放送に関わるスタッフとしてマイクの前に、カメラの前に、座ることができるように訓練を重ねる必要がある。そこで本番組では、キャ



写真1 収録中のカメラマン（SCNクラブ）とミキサー（ナバサクラブ）のボランティア右端に少し移っているのはディレクター



写真3 ケーブルテレビ側の送出室と局のスタッフ



写真2 収録中のゲスト（左）とキャスターのボランティア  
この日のゲストは  
NHK放送文化研究所  
主任研究員 平塚 千尋 先生

スターを毎回替えている。キャスターは両クラブの全クラブ員が経験することが重要であると考えているからである。放送のクオリティという面においては固定メンバーの方が良いものが期待できるが、本番組の目標はそこにはない。この番組の目的は災害時の放送ボランティア養成でもある。

### 苦勞した点

番組の開始当初は、人脈も少なくゲスト探しに苦勞をした。また、クラブ員はボランティアなのでそれぞれ仕事をもっており昼間の時間帯の生放送出演が難しい。そんな中でもこの番組の重要性を理解し、仕事を休んで番組に出席するクラブ員も多いのが現状である。

### 成功した点

両クラブ員に、地域の地震についての知識や危険性を訴えたことによりクラブ員であることそのものが災害時の放送スタッフであるという認識が浸透した。これにより、クラブ員が番組の重要性を理解し番組に協力的である。初期は、ゲスト探しに大変苦勞したが人の輪の広がりによってゲストの輪も広がってきた。いざという時のネットワークが形成されつつある。

## 地震その時あなたはゲスト及びテーマリスト2003年～

### 2003年

- 第70回 精神科医 中村 四郎 さん  
「災害時の心のケアについて ASDP PTSD障害」
- 第71回 ひらつか災害ボランティア 渡辺 豪 さん  
赤十字防災ボランティア 内田よしの さん  
「身近な災害弱者のために私たちは何をすべきか」
- 第72回 平塚市民病院 整形外科部長 松林 経世 さん  
「いざという時のための応急処置や救命法 災害時の対処方法と医療体制」
- 第73回 東京電力(株)平塚支社 お客様サービスグループ 渡辺 政勝 さん  
「災害時における東京電力の対応について」
- 第74回 (株)大雄建設 及川ゆうや さん  
「住まいの耐震性を高める制震装置ガルコンについて」
- 第75回 (株)安宅設計 岡田 敏 さん  
「高層ビルの耐震構造」
- 第76回 神奈川県企業庁水道局 平塚営業所 工務部工務課 深田 久志 さん  
「災害時における企業庁水道局の対応について」
- 第77回 東京都庁東京いのちのポータルサイト 木谷 正道 さん  
「地震の恐ろしい現象について 衝撃映像」
- 第78回 花水自治会役員 阪神・淡路大震災救援体験者 遠藤 敏昭 さん  
「体験から学んだ自主防災の大切さ」
- 第79回 韓国鮮文大学教授・上智大学客員教授 李 鍊 (イー ヨン) さん  
「韓国の危機管理について」
- 第80回 社会福祉法人 進和学園 防災担当 石黒 直樹 さん  
「進和学園の防災対応の取り組みについて」
- 第81回 ひらつか防災まちづくりの会 篠原 憲一 さん  
「花水地区から始まった防災活動の今後について」

### 2004年

- 第82回 アマチュア無線局  
局長 関 弘明 さん  
「アマチュア無線の防災活動の役割と一歩進めたパケット通信による情報発信について」
- 第83回 NHK放送文化研究所  
主任研究員 平塚 千尋 さん  
「2004年1月から変更された地震情報について」

## 主な成果

この活動の成果は、平常時からの情報発信により市民に正確な知識、情報をつたえることが7年もの長い間続けられていることである。

その成果の一部は、平塚市で行われた七都縣市合同防災訓練と同時に「地震!!その時あなたは」の特別番組で放送を行った。

M7の地震を想定し、各種情報を収集し放送するという訓練や、ライフライン関係な

どの専門分野の方をゲストに迎え話を聞くなどの放送を行い成功を収めた。

## 今後の展望

クラブ員の中には様々な年代の、様々な職種の人たちがいる。この、人の輪を中心に「地震!!その時あなたは」という番組をきっかけにして、クラブ員や地域の防災関係者のネットワーク作りに貢献していきたいと考えている。

